

2020年2月5日(水曜日)の北海道建設新聞に
災害時協定の締結にあたり
弊社パンの缶詰について掲載されました!

北海道建設新聞

2020年(令和2年)2月5日(水曜日)

災害時に食料品供給

道川崎建機と北広島市が協定



北海道川崎建機(本社・北広島)と北広島市は4日、災害時に備えた食料品供給に関し協定を結んだ。パン入り缶約500缶を毎年、市に無償提

供。賞味期限は約3年で、使用しなかった物は国内外への義援物資として活用する。同社は1969年の創業。昨年7月に50年の節

災害時の連携を確認した丹野社長(左)と上野市長

目を迎えたことを踏まえ、地域貢献と、北海道胆振東部地震で被災した大曲並木地区が近いことから、災害への備えの一環として協定を結んだ。

提供するパンの缶詰は、パン・アキモト(本社・栃木県那須塩原市)が製造。同社が展開する「救缶鳥プロジェクト」として、賞味期限3年のうち、2年半は非常食として保存し、賞味期限が残り半年となった物を国内外の災害や飢餓で苦しむ地域に届ける。道内自治体では初めての試みとなる。

500缶ずつ贈り、3年目は一部を義援物資として活用。このため常時1000-1500缶が備蓄される。

市庁舎で開いた締結式には、北海道川崎建機の丹野司社長、パン・アキモトの秋元信彦専務、上野正三市長ら7人が出席した。

上野市長は「災害時の食料品提供は心強い」と感謝。丹野社長は「節目を迎え何か役立てないか」と思っていた。今後でもきる限り取り組みたい」と述べた。